

2026年度 第3四半期決算

期間：2026年4月1日～6月30日

2026年8月6日、ドイツ・ミュンヘン

過去最高の第3四半期業績-見通しを上方修正

「当社は、受注高および利益が過去最高となり、再び非常に好調な四半期となりました。『ONE Tech Company』プログラムの実行を通じてイノベーションを加速させており、それがお客様へのさらなる価値創出につながっています。すべての事業における技術的リーダーシップ、インダストリアルAIへの明確な注力、そして魅力的な市場における強固なポジションが、当社の収益性の高い成長を牽引しています。当社は、お客様がイノベーションを加速させ、生産性を向上させ、デジタルトランスフォーメーションを推進するためにまさに必要とする技術を備えています。当社は今会計年度も成功裏に終える見通しであり、業績見通しを上方修正します。」

と、シーメンスAG代表取締役社長兼CEOのローランド・ブッシュは述べています。

また、シーメンスAG CFOのヴェロニカ・ビーナートは次のように述べています。

「第3四半期は、41億ユーロという素晴らしいフリーキャッシュフローを創出しました。これは、当社の堅調な事業実績を反映したものです。通期においても、再び2桁の売上高フリーキャッシュフロー比率の達成を目指しています。当社は戦略を着実に実行しており、新たに開始した自社株買いプログラムは引き続き株主の皆様には価値を創造し続けています。予想通り、税務当局から関連する税務上の課題を明確にする拘束力のある決定を受領しました。これにより、計画通りSiemens Healthineersのスピンオフを進めることができます。」

- 第3四半期の受注高は、スマートインフラストラクチャー部門の大幅増が牽引し、為替換算およびポートフォリオの影響を除いた比較可能ベースで14%増加しました。比較可能ベースの売上高は、すべてのインダストリー事業で増加し、8%増加しました。
- 名目ベースでは、受注高が13%増の過去最高となる279億ユーロ、売上高は7%増の208億ユーロとなり、出荷額に対する受注額の比率（以下、BBレシオ）は1.34と極めて堅調な水準となりました。
- インダストリー事業の利益は、大半の事業で業績が改善したことを受け、25%増の過去最高の35億ユーロに達し、利益率は17.3%となりました。
- 純利益は15%増の26億ユーロに達しました。これに対応する基本1株当たりの利益（EPS）は2.93ユーロ、購入価格配分会計前のEPS(PPAあたりのEPS)は3.14ユーロとなりました。
- 優れたキャッシュ創出により、シーメンス・グループ全体のフリーキャッシュフローは、41億ユーロへと大幅に増加しました。

SIEMENS

シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第3四半期		増減%	
	2026年度	2025年度	実績	比較
受注	27,902	24,719	13%	14%
売上	20,794	19,377	7%	8%
利益 (Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	3,524	2,820	25%	
内：退職手当	(83)	(120)		
利益率 (Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	17.3%	14.9%		
退職手当を除く	17.7%	15.6%		
継続事業からの利益				
	2,578	2,222	16%	
内：退職手当	(95)	(143)		
非継続事業からの利益、 (税控除後)				
	5	21	(76)%	
純利益	2,583	2,243	15%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	2.93	2.61	13%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	3.14	2.78	13%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)				
	4,148	2,918	42%	
キャッシュ・ コンバージョン・レート	1.61	1.30	24%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	14.8%	14.6%		

- 受注高は過去最高を記録。スマートインフラストラクチャー部門の急増に加え、Siemens Healthineers およびデジタルインダストリーズ部門でも大幅な成長が見られたほか、モビリティ部門も非常に高い水準であった前年同期並みを維持しました。
- すべてのインダストリー事業で売上高が増加し、特にスマートインフラストラクチャー部門とデジタルインダストリーズ部門の大幅な増加が牽引しました。
- 通貨換算の影響により、受注高と売上高の伸びはいずれも1ポイント押し下げられました。一方、ポートフォリオ取引による影響は最小限にとどまりました。
- インダストリー事業の利益は過去最高を記録しました。この増加は、デジタルインダストリーズ部門の大幅な増益が牽引したほか、主にSiemens Healthineersにおける米国関税の払い戻しによるプラスの影響が含まれています。
- インダストリー事業以外の業績には、比較対象となる両期間において2億ユーロの事業売却益が含まれています。
- 第3四半期の素晴らしいフリーキャッシュフローは、インダストリー事業からの42億ユーロが牽引しました。これは、2025年度
- 第3四半期の30億ユーロという既に堅調な水準を上回る結果です。特にモビリティ部門およびデジタルインダストリーズ部門をはじめ、すべてのインダストリー事業で改善が見られました。
- 2026年6月30日時点の年金および同様の債務に対する引当金は7億ユーロで、2025年度末から変わらず、同様の低水準を維持しています。
- 使用資本利益率(ROCE)は、純利益の増加が平均使用資本の増加を相殺したためわずかに上昇しました。

【参考資料】

本資料はシーメンスAG（ドイツ、ミュンヘン）が2026年8月6日（現地時間）に発表したプレスリリースを日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語および英語であり、その内容および解釈についてはドイツ語、英語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます（英文）。

<https://press.siemens.com/global/en/pressrelease/earnings-release-and-financial-results-q3-fy-2026>

報道機関からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社 広報代理
株式会社プラップジャパン 佐藤、廣重

E-mail: siemens@prap.co.jp